

【鉄の話題】古代史の謎「空白の4世紀」を解き明かすのか？ 奈良市富雄丸山古墳出土の鉄遺物【1】
[NHKスペシャル]「相次ぐ新発見！蛇行剣や盾形銅鏡から見てきたヤマト王権のすごさ」を視聴して
古代史ミステリー 第2集 ヤマト王権 空白の世紀 2024.3.22. 視聴

<https://infokkna2.com/ironroad2/2024htm/2024iron/24iron02.pdf>

■【映像資料 奈良市富雄丸山古墳出土の鉄遺物】5分間に凝縮した「Nスペ5min」より整理転記
<https://www.youtube.com/watch?v=NsMpX5cieuA>

NHKスペシャルの魅力を5分間に凝縮した「Nスペ5min.」。

『古代史ミステリー第2集 ヤマト王権 空白の世紀』のダイジェストをご紹介します。

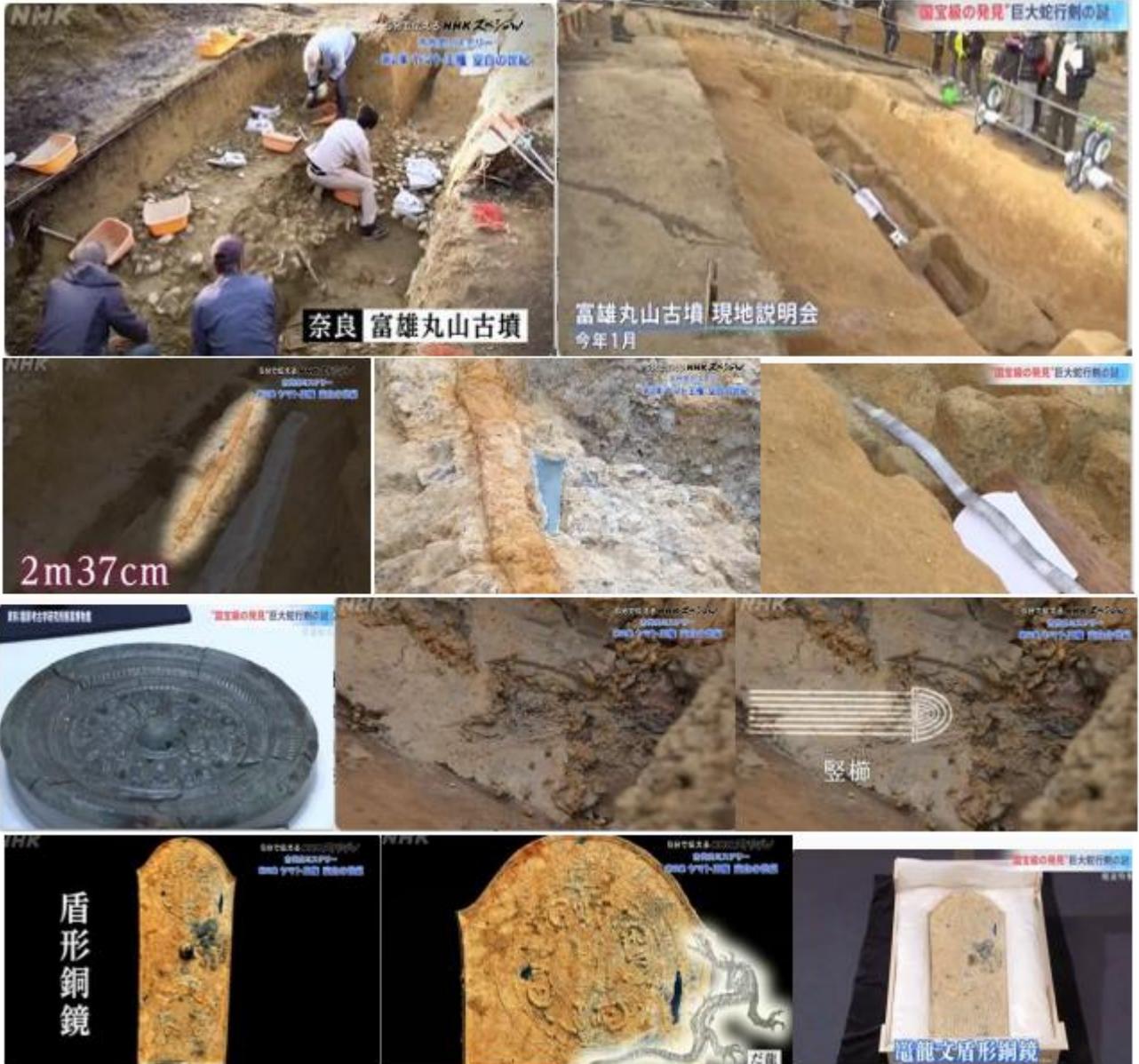
■ 添付 富雄丸山古墳 第6次調査 現地説明会資料 2023. 1.28 & 29. 奈良市教育委員会 埋文センター
https://www.gensetsu.com/20230128_tomio-maruyama/20230128_tomio-maruyama.htm

「古代史の謎を解くカギ「空白の4世紀」に何が!? “国宝級の発見” 東アジア最大の「蛇行剣」や
前例なき「盾形銅鏡」が明かす驚きの技術革新。
史上初の統一国家「ヤマト王権」の力の秘密は? 韓国で見つかった“謎の前方後円墳”。
風雲急を告げる東アジアの動乱。危機に挑む「倭の五王」の秘策は? 宿敵・高句麗との激闘の行方は?
最新科学や実験でダイナミックな戦略を徹底検証。
私たちの国のルーツに迫る壮大なミステリーの幕が開く!」と興味津々の番組紹介テープが連日流れました。



奈良県と大阪府の県境 生駒山の北山麓 奈良市丸山 富雄丸山古墳から 相次ぐ新発見
国宝級といわれる蛇行剣や盾形銅鏡が発掘された
新聞やTVで連日報道。 関西の古代史ファンにとっては久しぶり 興味津々のニュース
この3月発掘調査が進み、出土遺物の取り出し作業の中で、さらなる発見が出たと新聞・TVでも
大きく取り上げられた。
NHK BSで この 富雄丸山古墳から出土した「相次ぐ新発見！蛇行剣や盾形銅鏡」を取り上げた
「NHKスペシャル」が放映。
和鉄の道・の Iron Road にとっても、富雄丸山古墳の今の全容を知る願ってもない番組。
また、「畿内の鉄器空白の4世紀」と呼ばれる鉄鍛冶・実用鉄器製作の革新期に迫る番組
興味津々で見ましたので、視聴した番組の切り抜き Photo ですが、資料記録をかねてのご紹介
2024.4.25. From Kobe Mutsu Nakanishi

富雄丸山古墳の発掘調査の状況



「国宝級といわれる富雄丸山古墳から出土した「長尺蛇行剣」「盾形銅鏡」

遺跡からの取り出し保存処理の調査が進む中で、相次ぐ新発見!! & 空白の4世紀の謎?が見えてきた

ヤマト王権のすごさに迫る古代ミステリーが解き明かされる」との予告にびっくりし、興味津々。

まだ調査ははじまったばかりで、事実検証はまだこれから。

番組が伝えるほどセンセーショナルに「空白の4・5世紀の謎」が解き明かされたわけではありませんが、富雄丸山遺跡から出土した蛇行剣や盾形銅鏡の全容がしっかり描かれていました。

また文字のない時代 謎に包まれた卑弥呼邪馬台国の時代から、朝鮮半島との交流の中で、日本の国造りが始まる初期大和王権の古墳時代。

朝鮮半島の鉄素材を大量輸入して技術革新と共に実用鉄器製作が日本各地に広がってゆく

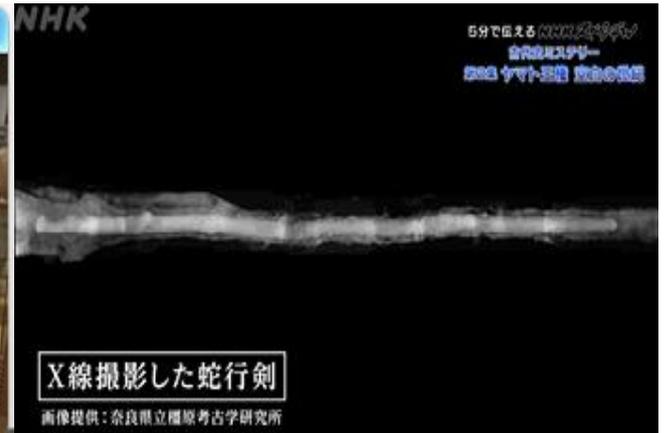
でも、その実像が見えぬ日本の鉄器展開 謎の4世紀。畿内では鉄器なき空白の4世紀と呼ばれることもある。弥生の原始鍛冶・低温鍛冶から高温鍛冶へ鉄の時代の画期の実像へ 鉄のロマン一杯の映像の数々。

まだ、考証がなされたとは言えないでしょうが、製作者たちのロマンあふれる映像ストーリーに興味津々。

「空白の世紀」と呼ばれる初期大和王権の4・5世紀

まだ、日本に製鉄技術がなく、朝鮮半島の鉄素材に頼り、実用鉄器製作が広く展開されてゆく時代へそして日本での製鉄が始まる5世紀の後半へ。鉄の謎のロマンも解き明かしに期待一杯の番組でした。

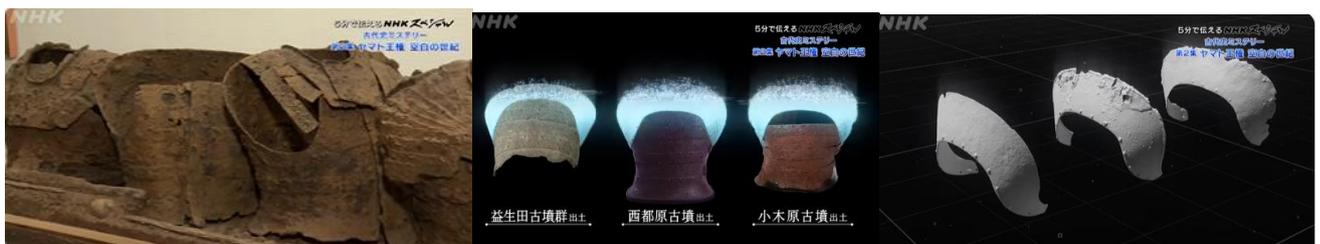
2024.3.25. From Kobe Mutsu Nakanishi



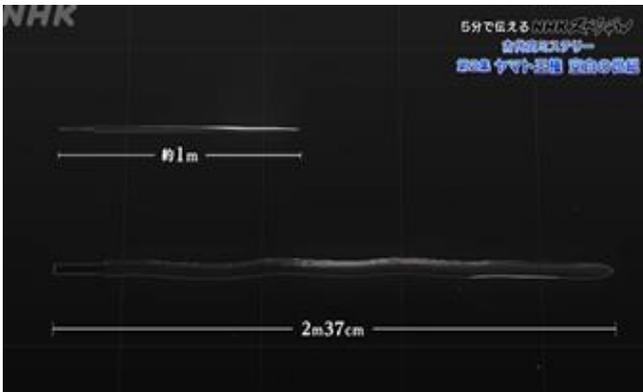
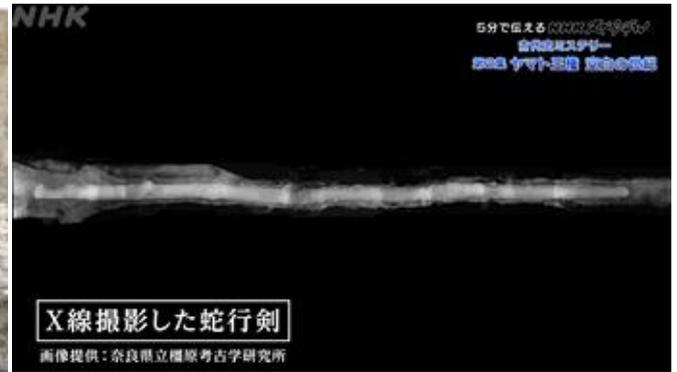
保存処理 榎考研のX線撮影で、間違いなく一つの鉄素材から作り出されたものと確認 4世紀の最高傑作
長さ2m37cmの長尺 日本を含め、東アジアで発見された最も長い蛇行剣 他に類がないという
4世紀 日本独自の鍛冶技術科が既に生まれていたのではないかと・・・本当なら定説を覆す大発見???



4・5世紀は大和王権の時代 朝鮮半島の鉄素材を求めて日本が半島に進出した時代
一方 朝鮮半島は伽耶・百濟・新羅の三国時代 中国・高句麗の圧力も受け、戦乱の時代
日本の出兵と共に半島からは数多くの渡来人 先進技術が日本へ 馬が日本に入ったのもこの頃



朝鮮半島の武具にはない特徴 同じ型の武具部品 高い技術を持った量産型武具部品等専用鍛冶工房の存在
が浮かび上がってくる。出土はいずれも九州の遺跡 高温鍛造の先進鍛冶技術を持つ北部九州の技術が
もう九州では根付いて広がりを見せているのだろうか？



考研のX線撮影で、一つの鉄素材から作り出されたと確認された蛇行剣

2m37cmの長尺 日本を含め、東アジアで発見された最も長い他に類がない4世紀の最高傑作

この蛇行剣を製作には鉄素材を何度も高温で加熱して、鍛造して引き伸ばしてゆく高温鍛冶炉と成形の鍛冶技術がある。日本の何処でどのようなプロセス・鍛冶技術が使われたのか？興味は広がる。

弥生時代の大鍛冶工房遺跡と言われる淡路島五斗長垣内遺跡でも既存技術での高温鍛冶が試されている。

一方 北部九州では朝鮮半島の先進鍛冶技術を取り入れた高温鍛造による成形技術が確認されている。

4世紀に突如現れた他に類を見ない蛇行剣 日本の鉄鍛冶技術が新しい時代に入ったことを象徴している

のかもしれない。また、北部九州にはじまった高温鍛冶の展開とこの蛇行剣の関係についても興味津々

また、この富雄丸山古墳の埋葬者も新しい鉄鍛冶技術につながる人物なのかもしれない。





日本初の統一国家であるヤマト王権、前方後円墳を数多く作り、高句麗と戦ったことなどはわかっているが、その多くが謎に包まれている。そして、現在 ヤマト王権に関する発見が相次ぎ、奈良県の富雄丸山古墳からはこれまでに発見例のない盾形銅鏡も発見され、そのデザインもまた世界に類を見ない。古代史の謎を解くカギ「文字のない空白の4世紀」に何が起こっているのだろうか!?

“国宝級の発見” 東アジア最大の「蛇行剣」や前例なき「盾形銅鏡」が明かす驚きの技術革新。史上初の統一国家「ヤマト王権」の力の秘密は？ 韓国で見つかった“謎の前方後円墳”。そして風雲急を告げる東アジアの動乱と日本と朝鮮の交流と日本の朝鮮進出。倭の五王とは？ そして、日本・河内に馬が持ち込まれたのも5世紀 私たちの国のルーツに迫る壮大なミステリーの幕が開き、大きく広がってゆく。

どうも番組の制作者たちのロマンを追ったストーリー建てに乗せられているのかもしれませんが。でも古代の鉄に興味を持つ者にとっては、そうあってほしいなあ・・・と。私の頭の中では 日本国内はまだまだ高温鍛冶が広く行き渡らず、量産前提の生産鍛冶現場も出てきていない。でも こんなに議論を巻き起こすほどの富雄丸山古墳からの出土品。今後の展開が楽しみ。そんな意味で 鉄のロマンを追う者にとっては興味深い番組でした。

インターネットには5分にまとめられた番組の紹介映像、ご興味があれば・・・

[NHKスペシャル] 古代史ミステリー 第2集 ヤマト王権 空白の世紀
相次ぐ新発見！蛇行剣や盾形銅鏡から見てきたヤマト王権のすごさ |

【映像資料 NHKスペシャルを5分間に凝縮した「Nスペ5 min.」】

<https://www.youtube.com/watch?v=NsMpX5cieuA>

NHK ニュース 2024年3月26日 17時15分

奈良 富雄丸山古墳の「蛇行剣」の「つか」 特殊な形とわかる

4世紀後半の富雄丸山古墳出土の「蛇行剣」は後の時代の剣の特徴を持つ先進性

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240326/k10014402871000.html>

奈良市の古墳で、古代の東アジアで最も長いとされる鉄剣「蛇行剣」が見つかり、持ち手部分の「つか」が、のちの時代の刀と剣の特徴をあわせ持った特殊な形をしていたことがわかりました。専門家は、古墳時代の刀剣類の変遷を知る上で極めて重要な資料になるとしています。

古墳時代の4世紀後半に造られたとされる奈良市の富雄丸山古墳では、令和4年度の調査で、古代の東アジアで最も長いとされる長さ2メートル30センチ余りの波打つような形「蛇行剣」と呼ばれる鉄剣が見つかり、奈良県立橿原考古学研究所で表面のさびや泥を取り除く作業が行われてきました。



その結果、持ち手部分の木製の「つか」は、

▼「把頭（つかがしら）」と呼ばれる先端の部分がアルファベットの「L」のように曲がっているほか、

▼「把縁（つかぶち）」と呼ばれる刃に近い部分の片側には突起がついていることが、新たにわかりました。

（下の写真の○の部分）

L字形の「把頭」はのちの時期の刀に、「把縁」の突起はのちの時期の剣にみられる特徴で、双方をあわせ持つ「つか」が見つかったのは初めてだということです。

また、剣をおさめていた木製の「さや」の先端には、長さ18センチほど、直径2センチほどの細長い棒のようなものがありました。

刀剣を立てて置く際にさやの先が直接地面に触れないようにする「石突（いしづき）」ではないかと考えられていて、古墳時代の刀剣で確認されたのは初めてだということです。



古墳時代に詳しい奈良県立橿原考古学研究所の岡林孝作 学芸アドバイザーは、「古墳時代の刀剣類の変遷を知る上で極めて重要な資料になる」と話しています。

この「蛇行剣」は、3月30日から4月7日まで、橿原市にある奈良県立橿原考古学研究所附属博物館で、一般に公開されます。



古代の刀剣に詳しい奈良大学の豊島直博教授によりますと、今回明らかになった「蛇行剣」の「つか」のように先端部分がアルファベットの「L」の字のように曲がった形になるのは4世紀後半に造られたとされる富雄丸山古墳よりののちの時期5世紀の刀の特徴だということです。

また、「把縁」と呼ばれる刃に近い部分の片側に突起がつくのも同じ5世紀の剣の特徴だということです。

豊島教授は「刀と剣、それぞれの形が定型化する前の試行錯誤の段階でつくられたのではないかと」したうえで、「ものすごく大きな蛇行剣は儀式や儀礼で使う特別な剣だと思われるが、そこに取り付けられていた『つか』や『さや』も特別な形のものだったことで、この剣の特殊性がさらに強調されることになった」と話しています。



【鉄の話題】古代史の謎「空白の4世紀」を解き明かすのか？ 奈良市富雄丸山古墳出土の鉄遺物【1】

【NHKスペシャル】「相次ぐ新発見！蛇行剣や盾形銅鏡から見てきたヤマト王権のすごさ」を視聴して

古代史ミステリー 第2集 ヤマト王権 空白の世紀 2024.3.22. 視聴

<https://infokkna2.com/ironroad2/2024htm/2024iron/24iron02.pdf>

■【映像資料 奈良市富雄丸山古墳出土の鉄遺物】5分間に凝縮した「Nスペ5min」より整理転記

<https://www.youtube.com/watch?v=NsMpX5cieuA>

NHKスペシャルの魅力を5分間に凝縮した「Nスペ5min。」

『古代史ミステリー第2集 ヤマト王権 空白の世紀』のダイジェストをご紹介します。

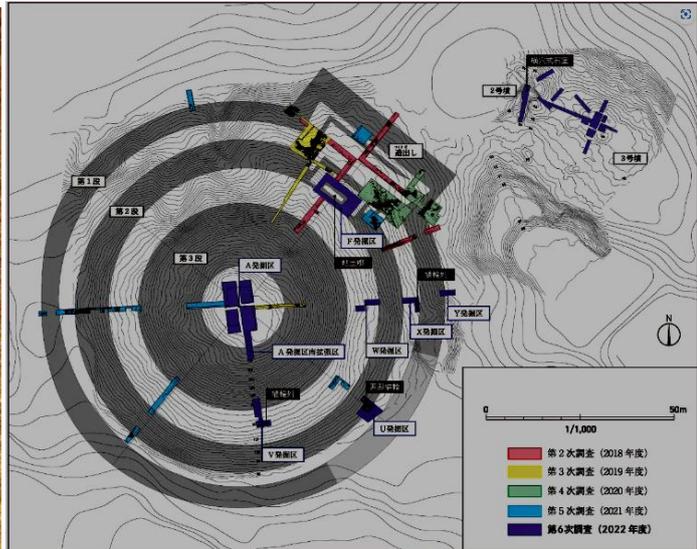
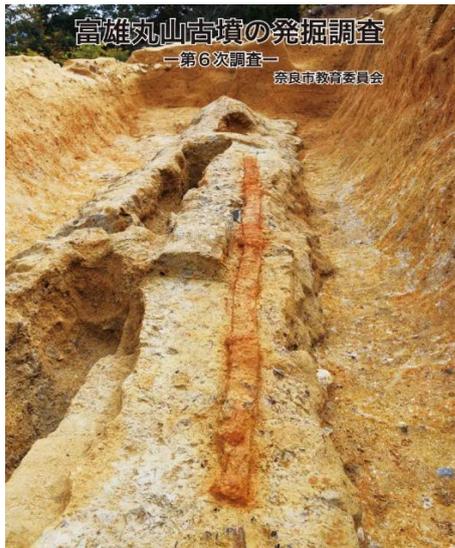
■ 添付 富雄丸山古墳 第6次調査 現地説明会資料 2023. 1.28 & 29. 奈良市教育委員会 埋文センター

https://www.gensetsu.com/20230128_tomio-maruyama/20230128_tomio-maruyama.htm

添付 富雄丸山古墳 第6次調査 現地説明会資料 2024.4.15. 資料転記整理

2023年(令和5年)1月28日(土)、29日(日) 奈良市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センター

https://www.gensetsu.com/20230128_tomio-maryama/20230128_tomio-maryama.htm

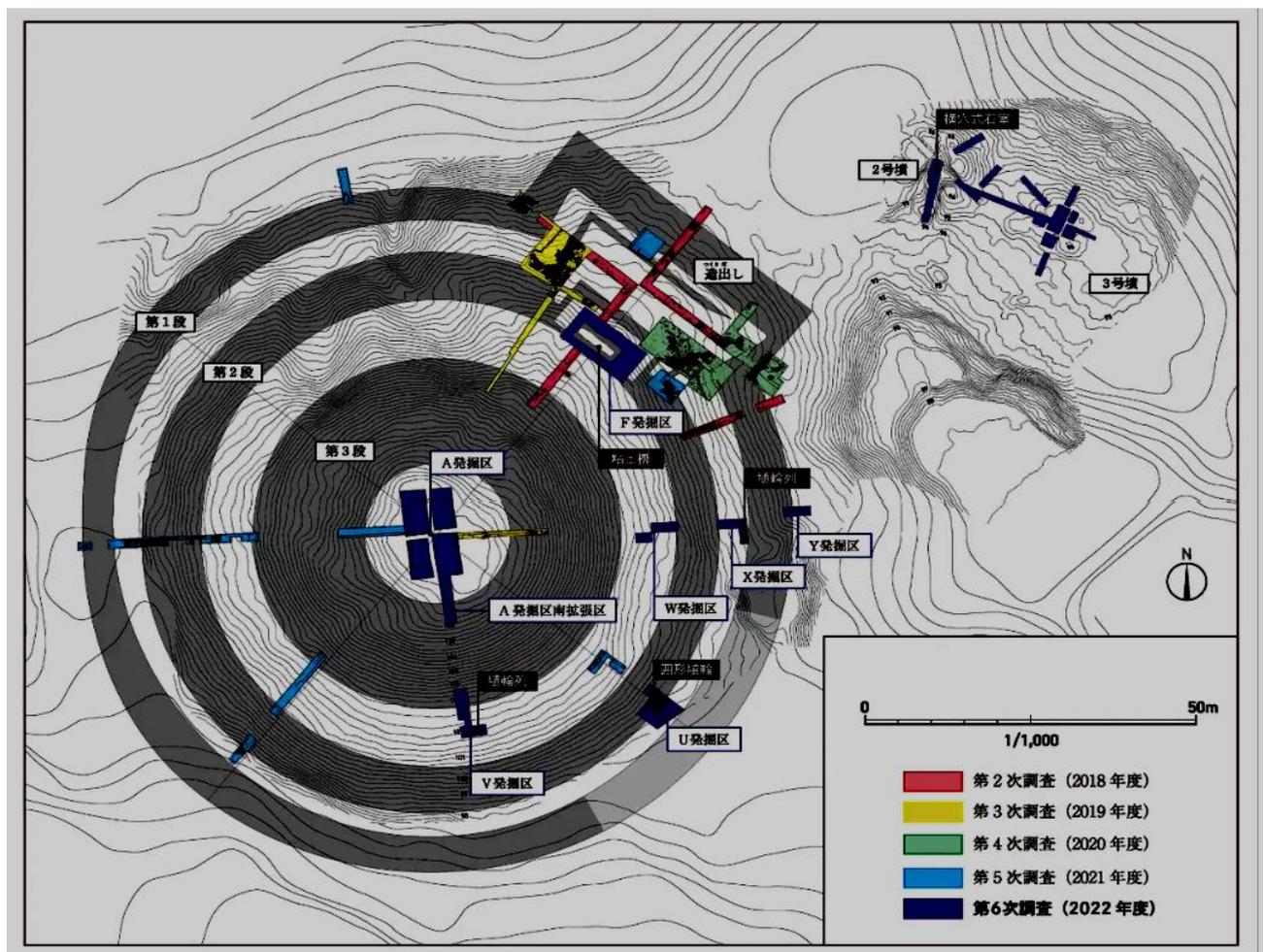


蛇行剣出土時の写真

富雄丸山古墳の位置

はじめに

富雄丸山古墳は、1972年に奈良県教育委員会が発掘調査を実施し、墳頂部に粘土槨(埋葬施設)のある大型円墳であることが判明しました。明治時代に盗掘された副葬品は、現在京都国立博物館に所蔵され重要文化財に指定されています。奈良市教育委員会では2017年度に航空レーザ測量(第1次調査)、2018年度から発掘調査を行い、直径109mの造出し付円墳(日本最大の円墳)であることがわかりました。



発掘調査成果

造出しの調査 F 発掘区

長さ約 7.4m、幅約 3m、深さ約 1m の長方形を呈す墓坑内で長さ約 6.4m、幅約 1.2m の粘土槨（埋葬施設）を確認しました。造出し上面の 礫敷を埋めた面から墓坑が掘り込まれており、墓坑を埋めた後に円丘部 2 段目斜面を完成させています。そのため、築造当初は計画されていなかったものの、古墳が完成するまでの間に埋葬施設を作るよう計画変更が行われたとみられます。

粘土槨内部にはコウヤマキで作られた割竹形木棺が残存しています。

棺身は、墓坑底を一段深く掘りくぼめた部分に設置されているとみられ、棺蓋をのせる位置の約 30cm 外側の範囲を粘土と砂で薄く整地しています。

円丘部側の被覆粘土中には、甕龍文盾形銅鏡 1 面と蛇行剣 1 本が副葬されていました。

甕龍文盾形銅鏡は長さ約 64cm、幅約 31cm で蒲鉾状に棺蓋を覆う被覆粘土の形状に合わせて斜めに立てかけられていました。背面中央に紐があり、その上下には和僞に認められる甕龍鏡の図像文様が確認できます。ほかにも鋸齒文を中心とする文様があり、類例のない銅鏡です。表面が平滑に研磨されており、倭鏡工人が製作したとみられます。

甕龍文盾形銅鏡をブロック状の粘土で埋めてその上に水平面を作り出し、長さ約 267cm の蛇行剣が副葬されていました。日本最大の鉄剣でもあり、蛇行剣としては最古例です。刃部幅は約 6cm ですが、蛇行しているため部分的に残存する鞘の幅は復元で約 9cm あります。柄頭・柄口・鞘口・鞘尻には有機質の装具痕跡が残存していました。



甕龍文盾形銅鏡出土状態 (F 区)



甕龍文盾形銅鏡

甕龍文盾形銅鏡出土状態 (F 区)

円丘部の調査 A 発掘区

南拡張区墳頂部に壇状の遺構があるかを確認するために設定しましたが、確認できませんでした。



湧水施設形埴輪検出状態 (第5次:U区)



1段目埴輪列出土状態 (X区)

湧水施設形埴輪検出状態 (第5次:U区)

1段目埴輪列出土状態 (X区)

U 発掘区

第5次調査で一部を確認した湧水施設形埴輪を伴う遺構の再確認を行いました。
その結果、埴輪を設置した高まりは2段目斜面に取り付くことがわかり、南東側を溝で区画していることがわかりました。

V 発掘区

3段目斜面の葺石は流出していましたが、2段目平坦面の小礫敷が残存していました。
また、3段目裾から約4mの位置で円筒埴輪列を確認し、2段目埴輪列が一周めぐっていたことがわかりました。

W・X・Y 発掘区

W 発掘区では2段目が崩れて埴輪列等が確認できませんでした。

X 発掘区では1段目平坦面の埴輪列を確認し、

Y 発掘区では概ね想定位置で古墳の裾を確認しました。

2・3号墳の調査

富雄丸山古墳の北東側隣接地には、1972年に奈良県の発掘調査で確認された富雄丸山2・3号墳があります。

2号墳は横穴式石室をもつ6世紀後半の円墳、3号墳は埋葬施設が確認されず不明確でした。

奈良市が実施した航空レーザ測量では、2・3号墳が連結するひとつの前方後円墳にもみえることから、旧発掘区の再調査を行いました。

その結果、両古墳の間を区画する溝がないこと、3号墳は盛土があるものの埋葬施設がないことが判明しました。測量成果をふまえれば、2号墳が後円部、3号墳が前方部となる前方後円墳である可能性があります。



石室

発掘調査体験 × 学生との協働調査

約 334 名の参加を得て発掘調査体験を実施したほか、包括連携協定に基づく奈良大学生、東京・筑波・大阪・京都府立・龍谷大学で古墳研究を行う大学生と協働して発掘調査を実施しました。

展示遺物



3分撮影X線写真を
1枚に合成

円筒埴輪

円筒埴輪

円筒埴輪

発掘現場 写真



Y発掘区 北から



Y発掘区 西から



Y発掘区 西から



X発掘区 東から

資料 ー 日本古代 和 鉄 の 歴 史 ー



1. 縄文晩期～弥生前期 紀元前 2 世紀～紀元 1 世紀 **【鑄造破片再生の時代】**

中国・朝鮮半島との交流は縄文時代晩期には既に始まっており、中国にその起源をもつ鉄器が日本に現れ、その後弥生前期には中国で製造された鑄物製の鉄斧などの破片を日本で割るなどの再加工して使用する事が始まる。

2. 弥生時代中期～後期 紀元 1 世紀～3 世紀初頭 **【原始鍛冶の時代】**

薄く板状に鑄込み表面脱炭去れた素材が日本に持ち込まれ、曲げなど簡単な鍛冶が行われるようになる。

3. 弥生時代後期以降～古墳時代中期 2 世紀～4 世紀 **【鍛打伸展鍛冶の時代】**

中国では脆い鑄鉄鑄物ばかりでなく、鉄鉱石を低温還元焼成してつくられた塊状錬鉄が得られるようになり、脱炭鑄鉄と同時に日本にこれらが持ち込まれるようになり、これらを素材とした鍛錬加工(原始鍛冶)がスタートし、次第に本格鍛冶へと移って行く。

4. 古墳時代初頭以降 初期～中期 3 世紀前半～5 世紀 **【本格鍛冶の時代】**

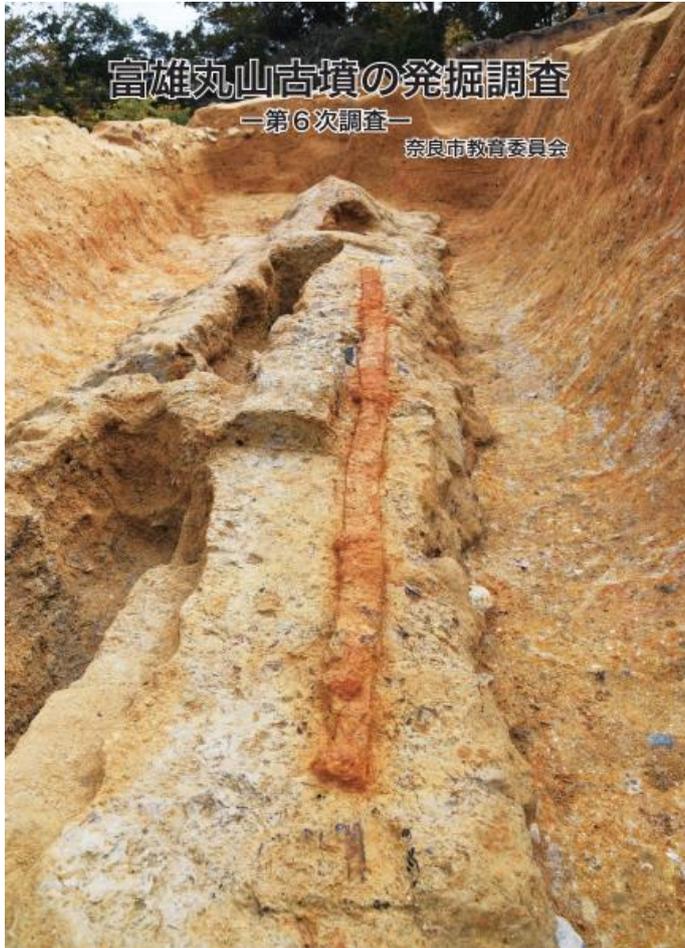
大陸では塊状鉄精錬が本格化し、鍛冶材料として広く流布。朝鮮半島でもこの塊状鉄精錬がスタートしたと見られるが、はっきりしない。

この当時 半島朝鮮半島の南部辰韓・加耶と倭国との交流が始り、4 世紀半ばには加耶が鍛冶加工された薄い鉄板(鉄)の供給基地として登場し、渡来人の交流と共に大量の鉄が鍛冶原料として持ち込まれるようになる。当初 3 世紀には北九州に限られた鉄の先進地が 5 世紀には瀬戸内・出雲・吉備・畿内へと東進してゆく。この間日本に於いてはこれら朝鮮半島から持ち込まれた鉄と共にこの鍛冶・加工に使った鍛冶炉跡や鍛冶滓が大量に見つかるようになる。

5 世紀後半になると畿内には大泉遺跡のような大規模な専業鍛冶集団が生まれて勢力を伸ばす。

5. 古墳時代中後期～飛鳥・奈良 5 世紀末～8 世紀 **【鉄生産・鉄の自給拡散の時代】**

その始りはまだはっきりしないが、5 世紀末から 6 世紀初頭にかけて 鉄鉱石原料とした箱型炉による製鉄精錬が日本国内(吉備)で始り、鉄素材の自給が始まった。また 国内に大量



はじめに

富雄丸山古墳は、1972年に奈良県教育委員会が発掘調査を実施し、墳頂部に粘土塚（埋葬施設）のある大型円墳であることが判明しました。明治時代に盗掘された副葬品は、現在京都国立博物館に所蔵され重要文化財に指定されています。奈良市教育委員会では2017年度に航空レーザ測量（第1次調査）、2018年度から発掘調査を行い、直径109mの造出し付円墳（日本最大の円墳）であることがわかりました。

発掘調査成果

造出しの調査

F発掘区 長さ約7.4m、幅約3m、深さ約1mの長方形を呈する墓坑内で長さ約6.4m、幅約1.2mの粘土塚（埋葬施設）を確認しました。造出し上面の雑草を埋めた面から墓坑が掘り込まれており、墓坑を埋めた後に円丘部2段目斜面を完成させています。そのため、築造当初は計画されていなかったものの、古墳が完成するまでの間に埋葬施設を作るよう計画変更が行われたとみられます。

粘土塚内部には、コウヤマキで作られた蒲葺形木棺が現存しています。棺身は、墓坑底を一段深く掘りくぼめた部分に設置されているとみられ、棺蓋をのせる位置の約30cm外側の範囲を粘土と砂で薄く敷地しています。

円丘部側の雑葺粘土中には、龍籠文帯形銅鏡1面と蛇行刺1本が副葬されていました。龍籠文帯形銅鏡は長さ約64cm、幅約31cmで蒲葺状に棺蓋を覆う雑葺粘土の形状に合わせて斜めに立てかけられていました。背面中央に銅があり、その上下には従前に認められる龍籠文の図像文様が確認できます。ほかにも背面文を中心とする文様が、類例のない銅鏡です。表面が平滑に研磨されており、漆工が製作したとみられます。

龍籠文帯形銅鏡をブロック状の粘土で埋めてその上に水平面を作り出し、長さ約267cmの蛇行刺が副葬されていました。日本最大の鉄剣でもあり、蛇行刺としては最古例です。刃部幅は約6cmですが、蛇行しているため部分的に残存する柄の幅は復元で約9mあります。柄頭・柄口・柄口・柄尻には有機質の装具痕跡が現存していました。

円丘部の調査

A発掘区南延長部 墳頂部に壇状の遺構があるかを確認するために設定しましたが、確認できませんでした。

U発掘区 第5次調査で一部を確認した湧水施設用埴輪を伴う遺構の再確認を行いました。その結果、埴輪を設置した高まりは2段目斜面に取り付くことがわかり、南東側を溝で区画していることがわかりました。

V発掘区 3段目斜面の墓石は流出していましたが、2段目平坦面の小礎数が確認されました。また、3段目裾から約4mの位置で円筒埴輪列を確認し、2段目埴輪列が一列めぐっていたことがわかりました。

W・X・Y発掘区 W発掘区では2段目が埋めて埴輪列等が確認できませんでした。X発掘区では1段目平坦面の埴輪列を確認し、Y発掘区では概ね想定位置で古墳の裾を確認しました。

2・3号墳の調査

富雄丸山古墳の北東側隣接地には、1972年に奈良県の発掘調査で確認された富雄丸山2・3号墳があります。2号墳は畿内式石室をもつ6世紀後半の円墳、3号墳は埋葬施設が確認されず不明瞭でした。奈良市が実施した航空レーザ測量では、2・3号墳の間に区画する溝の前方後円墳にもみえることから、旧発掘区の再調査を行いました。その結果、両古墳の間に区画する溝がないこと、3号墳は墓土があるものの埋葬施設がないことが判明しました。測量成果をふまれば、2号墳が後円部、3号墳が前方部となる前方後円墳である可能性があります。

発掘調査体験・学生との協働調査

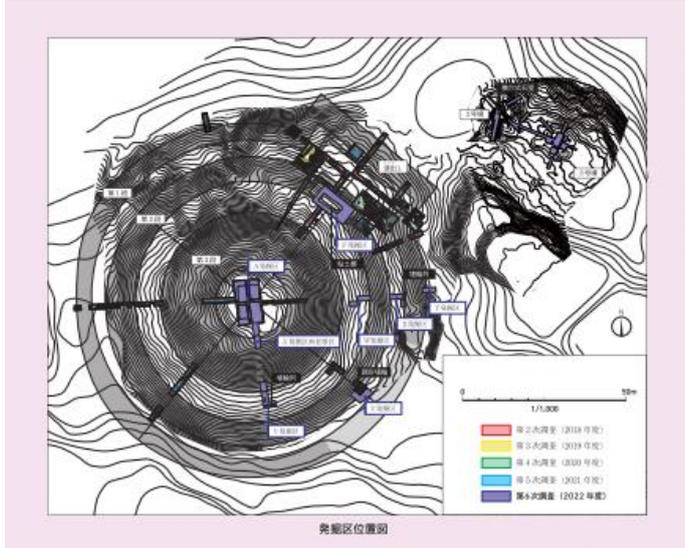
約334名の参加を得て発掘調査体験を実施したほか、包括連携協定に基づく奈良大学、東京・筑波・大阪・京都府立・龍谷大学で古墳研究を行う大学生と協働して発掘調査を実施しました。



富雄丸山古墳の発掘調査
—第6次調査—

編集：奈良市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センター 発行：奈良市教育委員会
〒630-8135 奈良市大安寺西二丁目281番地 発行日：2023年1月27日
TEL. 0742-33-1821





発掘区位置図



龍籠文帯形銅鏡出土位置 (F区)



石室の内部に土を盛りつけた痕跡 (U区)



円筒埴輪列出土位置 (X区)



富雄丸山2号墳の横穴式石室 (オルソ画像)



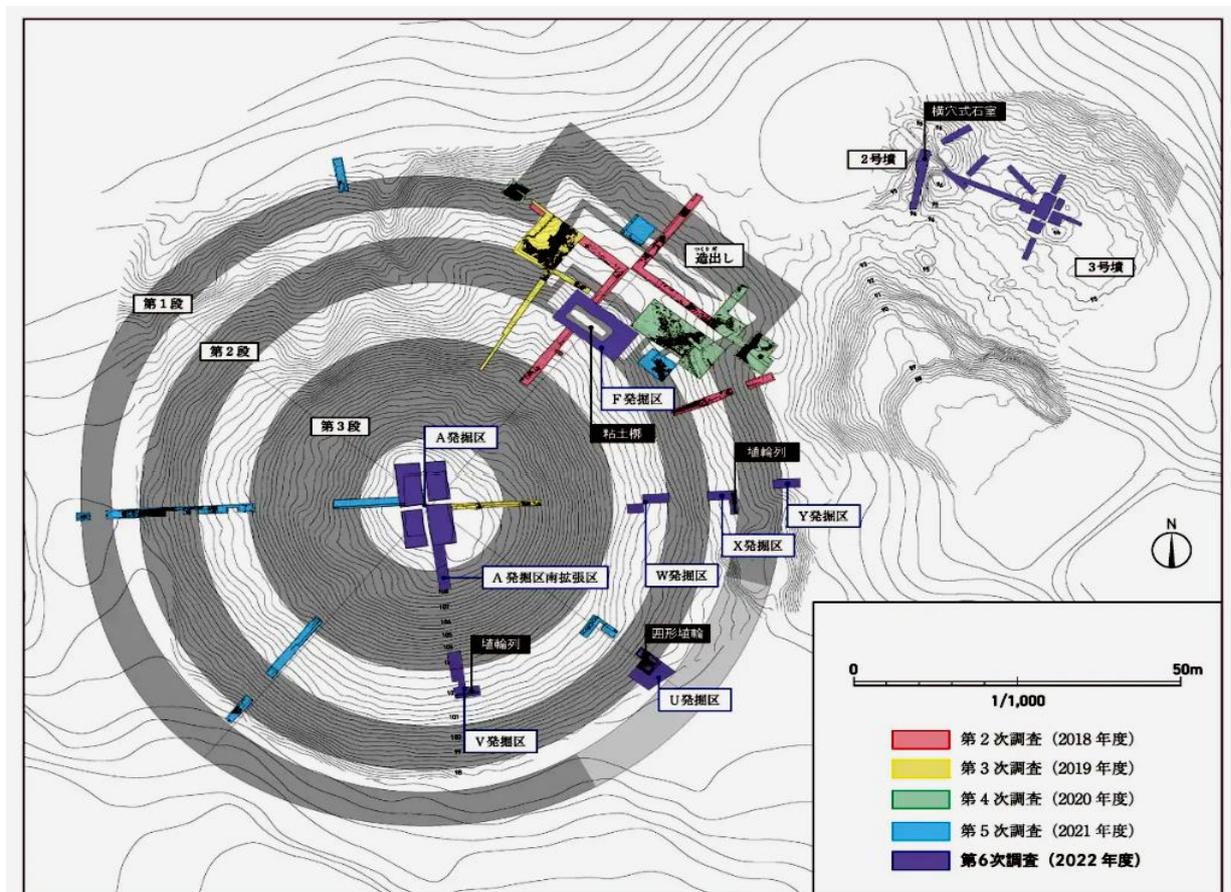
龍籠文帯形銅鏡 (発掘前写真)

【参考】整理 富雄丸山古墳 第6次調査 現地説明会資料 書き写し

2023年(令和5年)1月28日(土)、29日(日) 奈良市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センター

はじめに

富雄丸山古墳は、1972年に奈良県教育委員会が発掘調査を実施し、墳頂部に粘土槨(埋葬施設)のある大型円墳であることが判明しました。明治時代に盗掘された副葬品は、現在京都国立博物館に所蔵され重要文化財に指定されています。奈良市教育委員会では2017年度に航空レーザ測量(第1次調査)、2018年度から発掘調査を行い、直径109mの造出し付円墳(日本最大の円墳)であることがわかりました。



発掘調査成果

造り出しの調査

F発掘区 長さ約7.4m、幅約3m、深さ約1mの長方形を呈す墓坑内で長さ約6.4m、幅約1.2mの粘土槨(埋葬施設)を確認しました。造出し上面の礫敷を埋めた面から墓坑が掘り込まれており、墓坑を埋めた後に円丘部2段目斜面を完成させています。そのため、築造当初は計画されていなかったものの、古墳が完成するまでの間に埋葬施設を作るよう計画変更が行われたとみられます。

粘土槨内部にはコウヤマキで作られた割竹形木棺が残存しています。

棺身は、墓坑底を一段深く掘りくぼめた部分に設置されているとみられ、棺蓋をのせる位置の約30cm外側の範囲を粘土と砂で薄く整地しています。

円丘部側の被覆粘土中には、龍文盾形銅鏡1面と蛇行剣1本が副葬されていました。

龍文盾形銅鏡は長さ約64cm、幅約31cmで蒲鉾状に棺蓋を覆う被覆粘土の形状に合わせて斜めに立てかけられていました。背面中央に紐があり、その上下には和僑に認められる龍鏡の図像文様が確認できます。ほかにも鋸歯文を中心とする文様があり、類例のない銅鏡です。表面が平滑に研磨されており、倭鏡工人が製作したとみられます。

龍文盾形銅鏡をブロック状の粘土で埋めてその上に水平面を作り出し、長さ約267cmの蛇行剣が副葬されていました。日本最大の鉄剣でもあり、蛇行剣としては最古例です。刃部幅は約6cmですが、蛇行しているため部分的に残存する鞘の幅は復元で約9cmあります。柄頭・柄口・鞘口・鞘尻には有機質の装具痕跡が残存していました。

円丘部の調査

A 発掘区南拡張区 墳頂部に壇状の遺構があるかを確認するために設定しましたが、確認できませんでした。
U 発掘区 第5次調査で一部を確認した湧水施設形埴輪を伴う遺構の再確認を行いました。その結果埴輪を設置した高まりは2段目斜面に取り付くことがわかり、南東側を満で区画していることがわかりました。

V 発掘区 3段目斜面の葺石は流出していましたが、2段目平坦面の小礫敷が残存していました。また、3段目裾から約4mの位置で円筒埴輪列を確認し、2段目埴輪列が一周めぐっていたことがわかりました。

W・X・Y 発掘区 W発掘区では2段目が崩れて埴輪列等が確認できませんでした。X発掘区では1段目平坦面の埴輪列を確認し、Y発掘区では概ね想定位置で古墳の裾を確認しました。

2・3号の調査

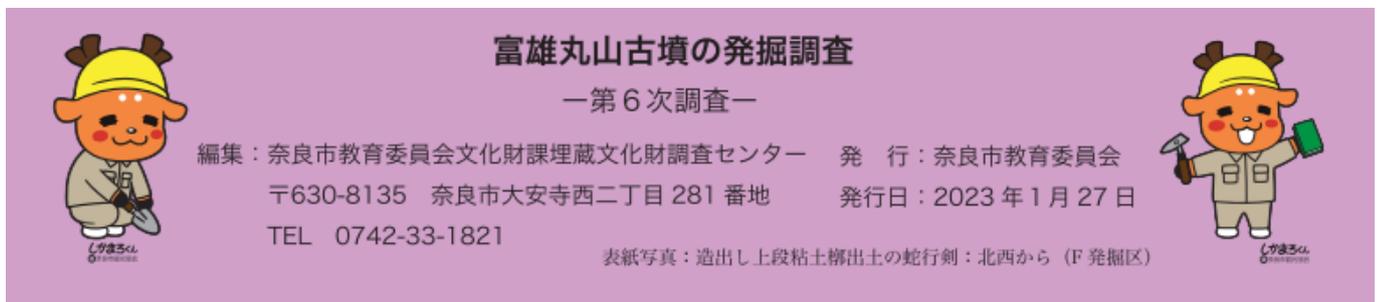
富雄丸山古墳の北東側隣接地には、1972年に奈良県の発掘調査で確認された富雄丸山2・3号墳があります。2号墳は横穴式石室をもつ6世紀後半の円墳、3号墳は埋葬施設が確認されず不明確でした。

奈良市が実施した航空レーザ測量では、2・3号墳が連結するひとつの前方後円墳にもみえることから、旧発掘区の再調査を行いました。

その結果、両古墳の間を区画する溝がないこと、3号墳は盛土があるものの埋葬施設がないことが判明しました。測量成果をふまえれば、2号墳が後円部、3号墳が前方部となる前方後円墳である可能性があります。

発掘調査体験。学生との協働

約334名の参加を得て発掘調査体験を実施したほか、協定に基づく奈良大学生、東京、波、大阪、京群 附立、龍谷大学で吉相研究全行う大学生と協働して治査を実施しました。



富雄丸山古墳の発掘調査
—第6次調査—

編集：奈良市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センター 発行：奈良市教育委員会
〒630-8135 奈良市大安寺西二丁目 281 番地 発行日：2023年1月27日
TEL 0742-33-1821

表紙写真：造出し上段粘土榑出土の蛇行剣：北西から（F発掘区）

【和鉄の道・Iron Road 2024】

鉄のロマン 生駒山地の北端部山麓 奈良市「富雄丸山古墳〔円墳〕」の鉄遺物に接して

【1】[NHKスペシャル] 古代史ミステリー 第2集 ヤマト王権 空白の世紀 2024年3月22日

「相次ぐ新発見！蛇行剣や盾形銅鏡から見てきたヤマト王権のすごさ」を視聴して

<https://infokkna2.com/ironroad2/2024htm/2024iron/24iron02.pdf>

■【映像資料 奈良市富雄丸山古墳出土の鉄遺物】5分間に凝縮した「Nスペ5min」より整理転記

<https://www.youtube.com/watch?v=NsMpX5cieuA>

NHKスペシャルの魅力を5分間に凝縮した「Nスペ5min.」。

『古代史ミステリー第2集 ヤマト王権 空白の世紀』のダイジェストをご紹介します。

■ 添付 富雄丸山古墳 第6次調査 現地説明会資料 2023. 1.28 & 29. 奈良市教育委員会 埋文センター

https://www.gensetsu.com/20230128_tomio-maruyama/20230128_tomio-maruyama.htm

【2】和鉄の道・Iron Road 資料に見る大和王権による国造りが始まった謎の4世紀 掲載資料の整理資料 和鉄の道・Iron 「日本の国造りの始まりと鉄」 リンクリスト 2024.4.20.

<https://infokkna2.com/ironroad2/2024htm/2024iron/24iron03.pdf>